

野菜高騰 県内大弱り

ネギやトマトといった家庭で日常的に消費される野菜の高騰が全国的に続いている。県内では今月、ネギの小売価格が昨年同期比で一時、2倍になった。今夏の高騰による不作が原因で、田安に伴う輸入品の値上がりとともに、家計の負担になっている。(松田十郎)

猛暑による不作

農林水産省が全国470と比較した平年比で値上がり店舗で今月16～18日に実施した食品価格動向調査によると、対象の8品目すべてが、過去5カ年の平均価格



ン、トマトで値上がりの割合が大きかった。 坂井市のネギ栽培農家は「ネギは乾燥には強い作物

ネギ一時2倍(昨年比) トマト1個300円

だが、ゲリラ豪雨で根が腐んだところに猛暑が来て腐って消えていった。9、10月の収穫量は昨年より、2割と話す。

県内でスーパーを展開する事業者によると、23日現在でネギ1束が398円で昨年同期の198円の2倍になった。トマト1個は298円で同じく67%の値上がりで7月3日の128円に比べると2.3倍。昨年比ではキュウリは5割高、レタスは3割高になった。

「ネギやトマトでこの価格を上げたのは初めて。トマトは暑さで実が着かず収穫が落ちた」と担当者は27日朝、開店間もないスーパーで見込まれる」と話した。

「を訪れた高齢男性は「トマト」がほとんど1000円。いくら好きでもほかにかしくて買えない」とあきれた表情を浮かべた。

青果物卸売業の福井青果(福井市)の担当者は「ネギは地元産が多い作物で数回の回復は難しい。12月ごろから九州産が入ってくるから九州産が入って来れば安定供給でき価格も下がるだろう。トマトは岐阜、愛知県産が11月中旬から入り、暑、価格とも好転する」と見込まれる」と話した。